

「親子一体化」が進む進路選択

グローバル化社会を見据えた高校生と保護者の進路意識の変化

先行き不透明といわれる社会の中で、進路選択に関する親子のコミュニケーションや関係性にどんな変化が起こっているのだろうか。2003年より、全国高等学校PTA連合会と小社で合同調査を行ってきた「高校生と保護者の進路に関する意識調査」も、第6回を迎えた。ここでは、調査結果の中から、高校生の進路選択の意思決定に、保護者がどう関わっているのか、高校生の心境と保護者の言動、そしてグローバル化社会に向けた意向について報告する。

リクルート『キャリアガイダンス』編集長 山下真司

【調査概要】		【回答者プロフィール】	
●調査実施者	一般社団法人全国高等学校PTA連合会・株式会社リクルートマーケティングパートナーズ	■高校生	●性別 男子45.9% 女子52.6% (無回答1.6%)
●調査対象	全国の高校2年生とその保護者(全国高等学校PTA連合会より依頼した9都道府県の公立高校27校:2年生2クラス分の高校生と保護者)	●高校タイプ	普通科68.1% 専門学科26.8% 総合学科5.0%
●調査期間	2013年9月24日～10月31日	●高校卒業後の希望進路	大学進学59.4% 短大進学3.6% 専門学校進学15.9% 海外の大学等への進学0.4% 就職18.2% パート・アルバイト0.3% その他1.9% (無回答0.2%)
●調査方法	①高校生:ホームルームにてアンケートに回答 ②保護者:高校生から保護者へアンケートを手渡し ③学級担任が高校生分と保護者分を取りまとめ、その後学校責任者が学校分として返送	■保護者	●続柄 父親11.4% 母親86.0% その他0.6% (無回答2.0%)
●回収数	高校生2,044、保護者1,704	●子どもの性別	男子43.9% 女子54.0% (無回答2.1%)
●有効回答数	高校生2,043、保護者1,696	●子どもに対する高校卒業後の希望進路	大学進学46.4% 短大進学2.6% 専門学校進学9.7% 海外の大学等への進学0.4% 就職14.7% その他1.1% 子どもが希望する進路なら何でもよい22.9% (無回答2.2%)

[注]2009年(第4回調査)と2011年(第5回調査)の調査概要はそれぞれ、162号P40、174号P30を参照。

今どきの親子像

進路にまつわる親子コミュニケーションは良好 悩みや不安、希望進路を共有し、進路に関する具体的なアドバイスを保護者に求める

高校2年生の時点において、卒業後の進路について保護者と会話しているかという質問に対し、約78%の高校生が保護者と会話していると回答。前回2011年の調査よりも3.5ポイント増加していることがわかった。

具体的にどんな話をしているのかを見てみると(図1)、卒業後の具体的な進路(60%)、将来就きたい職業(51%)、将来の自分の夢(45%)、現在の成績(43%)と、志望校選択や受験

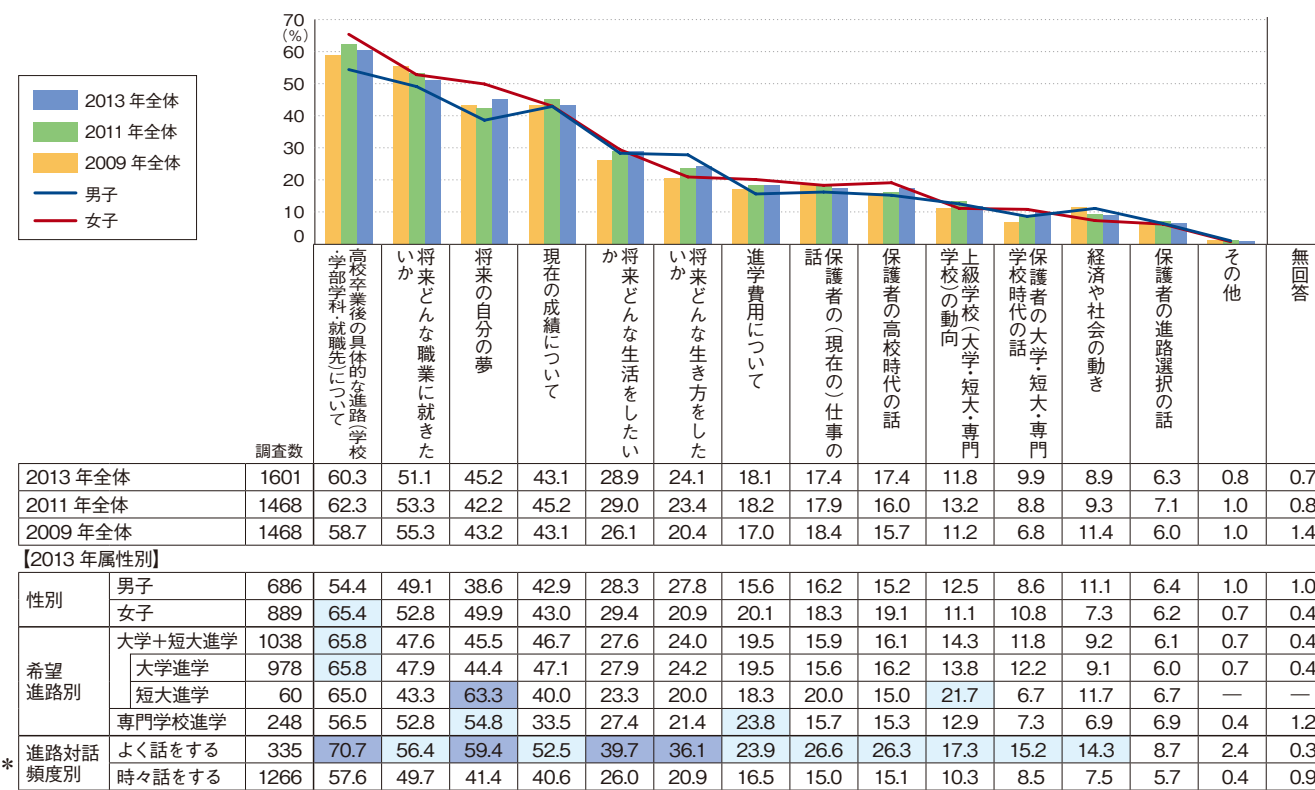
に向けた高校生の気持ちや写し出されている。また、保護者との対話頻度別に見てみると(*印)、よく会話する高校生は全項目でスコアが高く、会話する内容も幅広いことが分かる。

進路を考えるうえで相談する相手は(図2)、「母親」が1位。前回調査より4.6ポイント伸ばし、ついに8割を超えた。「一番の理解者であり、一番近くにいる存在」というコメントに象徴されている。以下「友人」「父親」「担任

の先生」と続くが、男子では父親が、女子では友人が2位となる。

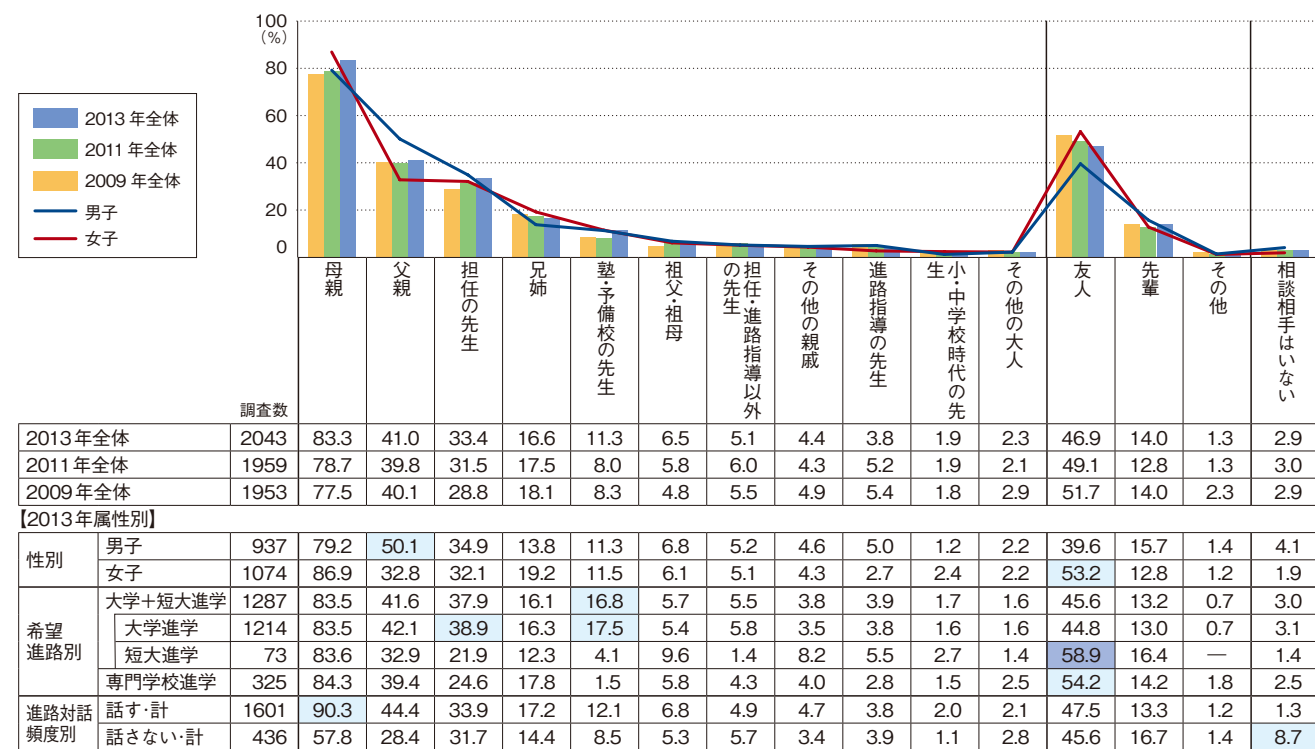
さらに、進路を考えるうえで高校生に影響を与えている人についても尋ねたところ、相談相手と同様、母親の1位(44%)に変わりはないが、父親が2位(31%)に上昇し、前回調査より2.5ポイント増加。「やりたいことを職業にしたい」というコメントに象徴される子どもの心境が窺える。

図1 高校生 進路についてどんな話をしているか (よく話をする～時々話をする/複数回答)



* [2013年属性別]は、「2013年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け [100.0] [2013年全体]より10ポイント以上高い [100.0] [2013年全体]より5ポイント以上高い

図2 高校生 進路について、相談する相手 (全体/複数回答)



* [2013年属性別]は、「2013年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け [100.0] [2013年全体]より10ポイント以上高い [100.0] [2013年全体]より5ポイント以上高い

進学にまつわる気持ち 7割の高校生が進路を考えると「不安な気持ち」 最大の気掛かりは「学力不足」

高校生に進路を考えると、どんな気持ちになるかを質問したところ(図3)、「不安な気持ち」(30%)、「どちらかという不安」(40%)を合わせると全体の約7割の高校生が不安を抱えていることが分かった。一方、「楽しい気持ち」(8%)、「どちらかという楽しい気持ち」(17%)は、両者を足し合わせても3割に満たない。

そんな高校生に、「進路選択について気掛かりなこと」(図4)を全て選んでもらったところ、「学力が足りないかもしれない」(59%)が突出してトップ。以下、「自分に合っているも

のがわからない」「やりたいことが見つからない」と、適性や目標が分からないという回答が続く。

希望進路別でみると、大学進学希望者は「学力不足」を、短大進学希望者、専門学校希望者は「自分で決断する自信がない」「経済的な理由で自分の希望がかなわないかもしれない」という不安を抱えている実情が浮き彫りになってくる。

図3 高校生 進路を考えたときの気持ち (高校生/単一回答)

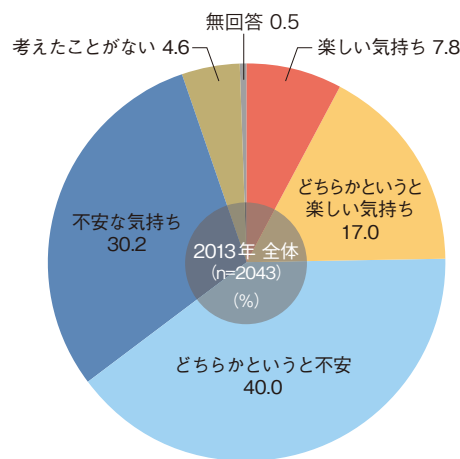
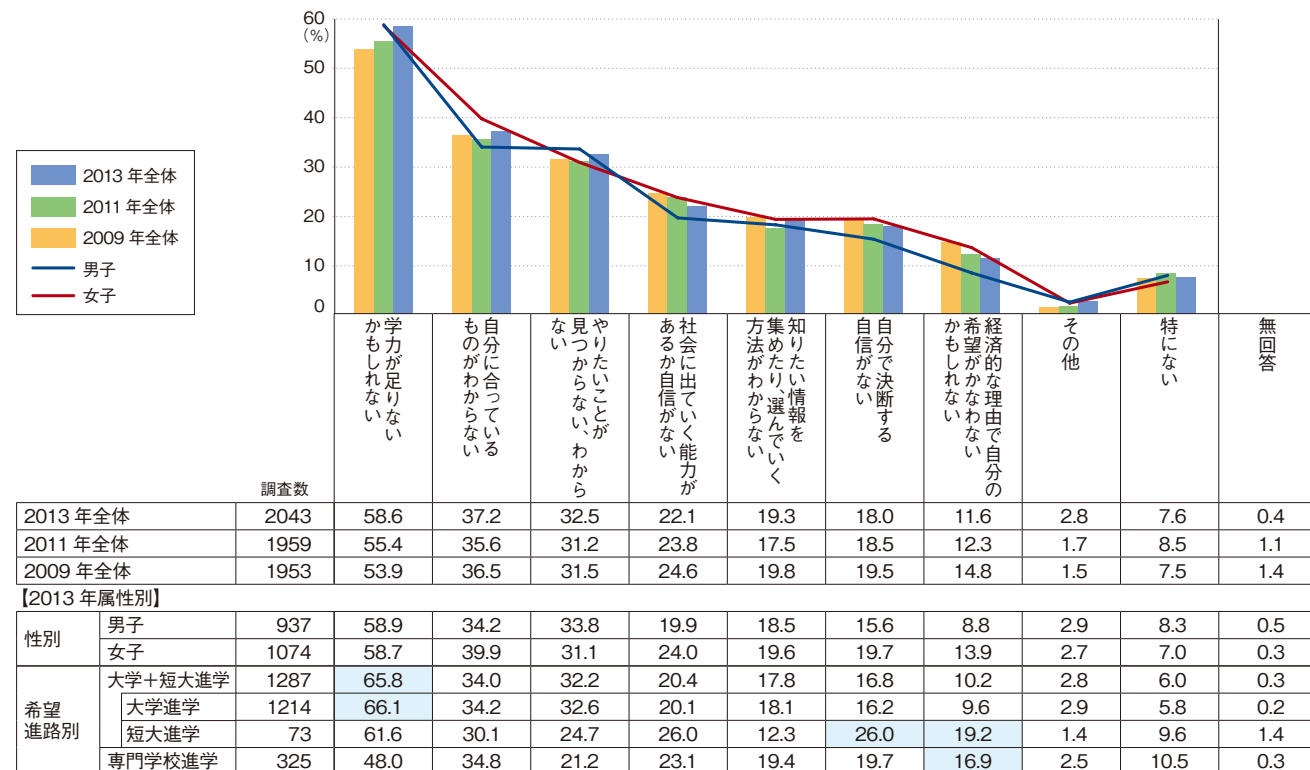


図4 高校生 進路選択についての気掛かり (全体/複数回答)



※[2013年全体]降順ソート ※[2013年属性別]は、「2013年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け
[100.0] [2013年全体]より5ポイント以上高い

就業に関する気持ち 社会の景況感と裏腹の親子の不安感 高校生・保護者共に、「就きたい職業に就くことができるだろうか」が最も不安

次に、高校生が将来働くことについて気掛かりなことがあるかを尋ねると、高校生・保護者共に約7割が「ある」と回答している。具体的に気掛かりな項目として最も多かったのは(図5)、「就きたい職業に就くことができるだろうか」が両者共にトップ。特に保護者は75%を超える高い回答率となっている。また、高校生と保護者の傾向の違いに着目すると、高校生は「十分な収入が得られるだろ

うか」(45%)「職場の人間関係がうまくいけるだろうか」(41%)と、「働く」という未知な世界への不安が多い。一方、保護者は、「就きたい職業が思い浮かぶだろうか」(29%)、「歳をとっても働き続けられるだろうか」(16%)のように、長い人生の視点からわが子の将来を不安視している姿がそこに窺える。

未来社会への認識(図6)については、「好ましい社会」という回答が高

校生(15.4ポイント増)、保護者(9.7ポイント増)共に大きく増加している。その理由には、「アベノミクス」「東京五輪」の言葉が多く見られ、より良い社会への期待や願いが込められているように思われる。

その一方で、過半数以上の高校生・保護者は「好ましくない社会」と回答しており、社会全体での景況感とは別に、個人レベルの不安感を払拭するには至っていない。

図5 働くことについての気掛かりの内容 (高校生・保護者：気掛かりが「ある」回答者/5つまで回答)

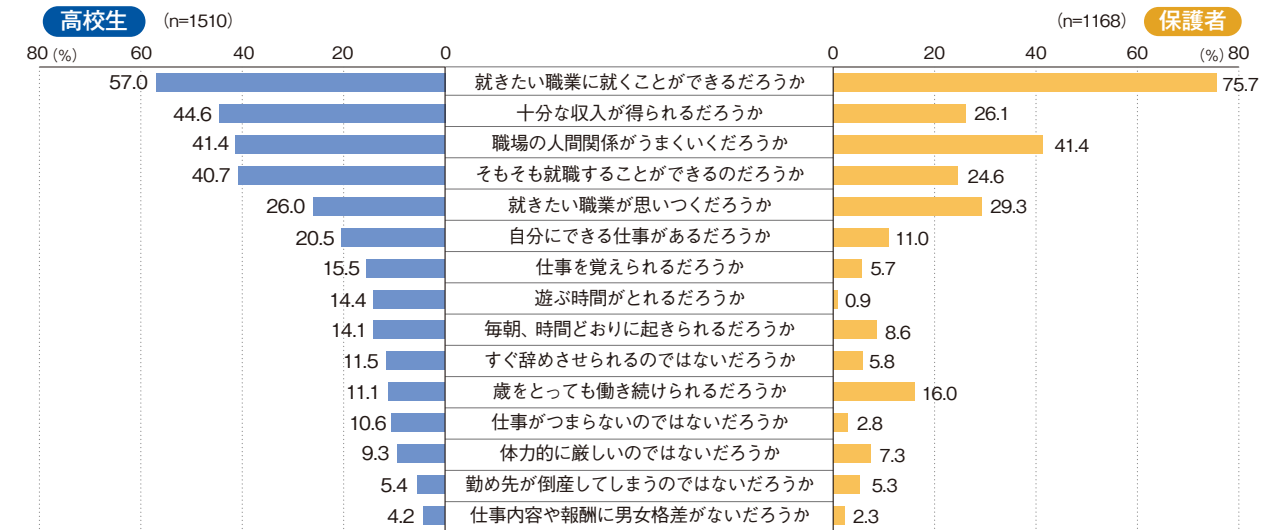
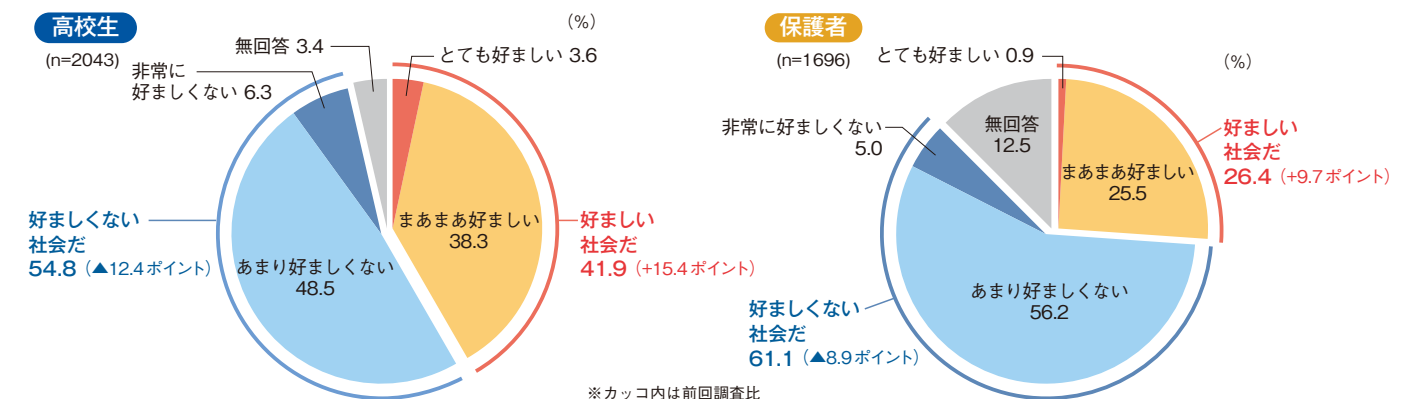


図6 これからの社会は高校生にとって好ましいか



※カッコ内は前回調査比

保護者の進路選択への関与 「アドバイス」から「行動する」保護者へ “出しゃばる”保護者が増加する兆候も

子どもに進学を希望する保護者に進路選択において重要だと思う項目について尋ねると(表7)、「進学費用」(53%)と「現在の入試制度の仕組み」(52%)が共に50%を超える回答があった。

また、進路を考えるための情報の入手先について回答してもらったところ(図8)、1位「各学校のホームページ」(47%)、2位「高校の担任の先生」(45%)、3位「各学校の学校案内やパンフレット」(41%)、4位「子どもが持ち帰る高校で配布された資料」(41%)、5位「各学校の説明会やオープンキャンパス」(39%)となっており、「学校発信の情報」「高校を基点とした情報」そして「リアルな学校情報」の3つに大別して捉えることがで

きる。過去の調査と比較してみると、「各学校のホームページ」「進学情報サイト」「ブログやSNS」「メールマガジン」のスコアが大幅に増加しており、ネットから情報収集する保護者が増加している様子も窺える。また、「各学校の説明会やオープンキャンパス」も2009年の調査から増加傾向にある。後述するが、保護者の積極

きる。過去の調査と比較してみると、「各学校のホームページ」「進学情報サイト」「ブログやSNS」「メールマガジン」のスコアが大幅に増加しており、ネットから情報収集する保護者が増加している様子も窺える。また、「各学校の説明会やオープンキャンパス」も2009年の調査から増加傾向にある。後述するが、保護者の積極

表7 保護者 特に重要な進学情報 (進学希望者/5項目まで複数回答)

調査数	進学費用(学費・生活費など)	現在の入試制度の仕組み	学部・学科の内容	将来の職業との関連	就職の状況(実績)	入試の内容	資格取得の状況(実績)	奨学金の種類と採用条件	難易度	校風・雰囲気	
2013年全体	996	53.0	51.7	43.8	43.1	36.5	31.4	26.2	25.2	21.0	13.9
2011年全体	852	52.3	42.7	38.6	51.9	38.6	23.9	25.8	25.9	23.2	8.3

図8 保護者 進学情報の入手先 (進学希望者/複数回答)

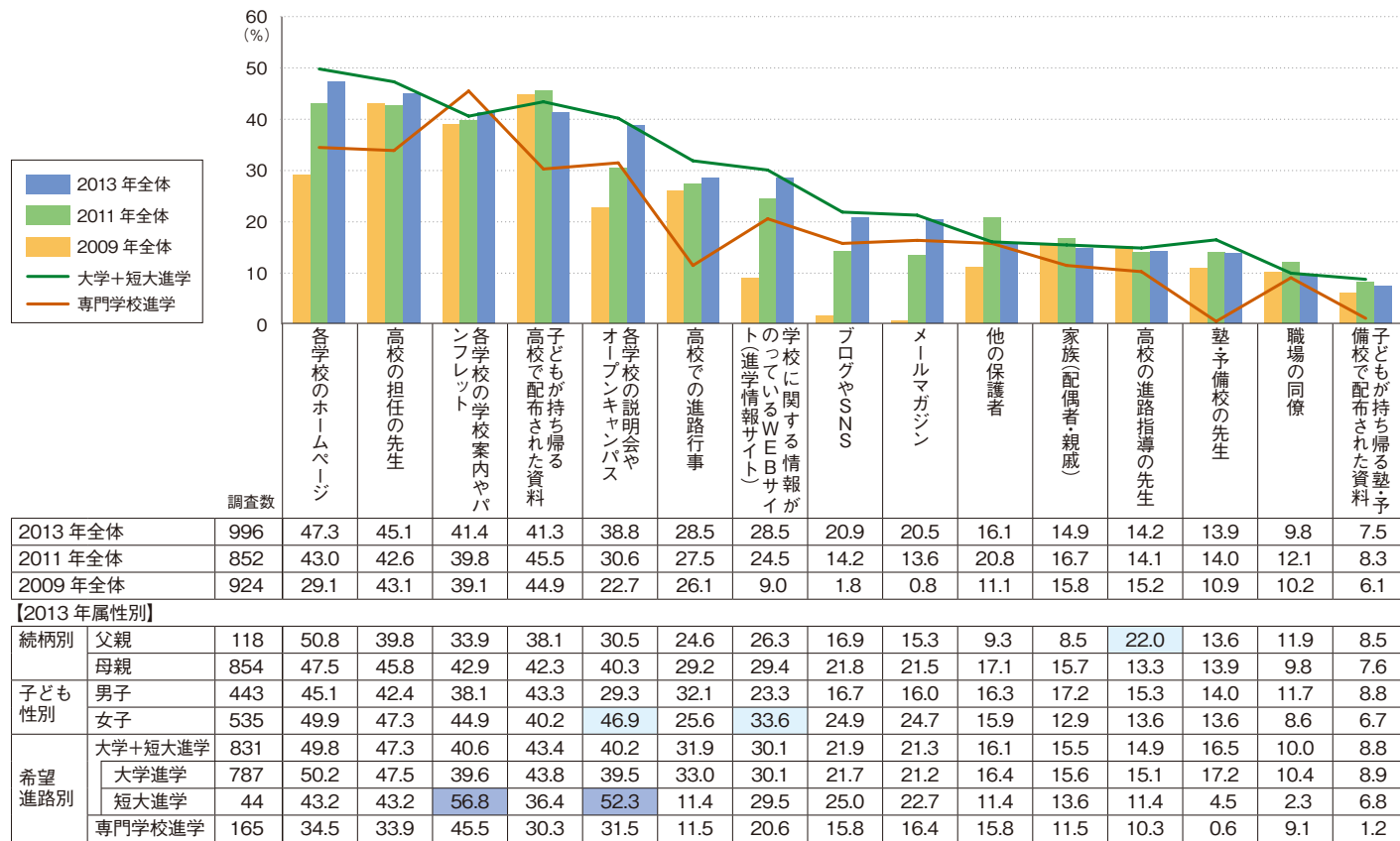
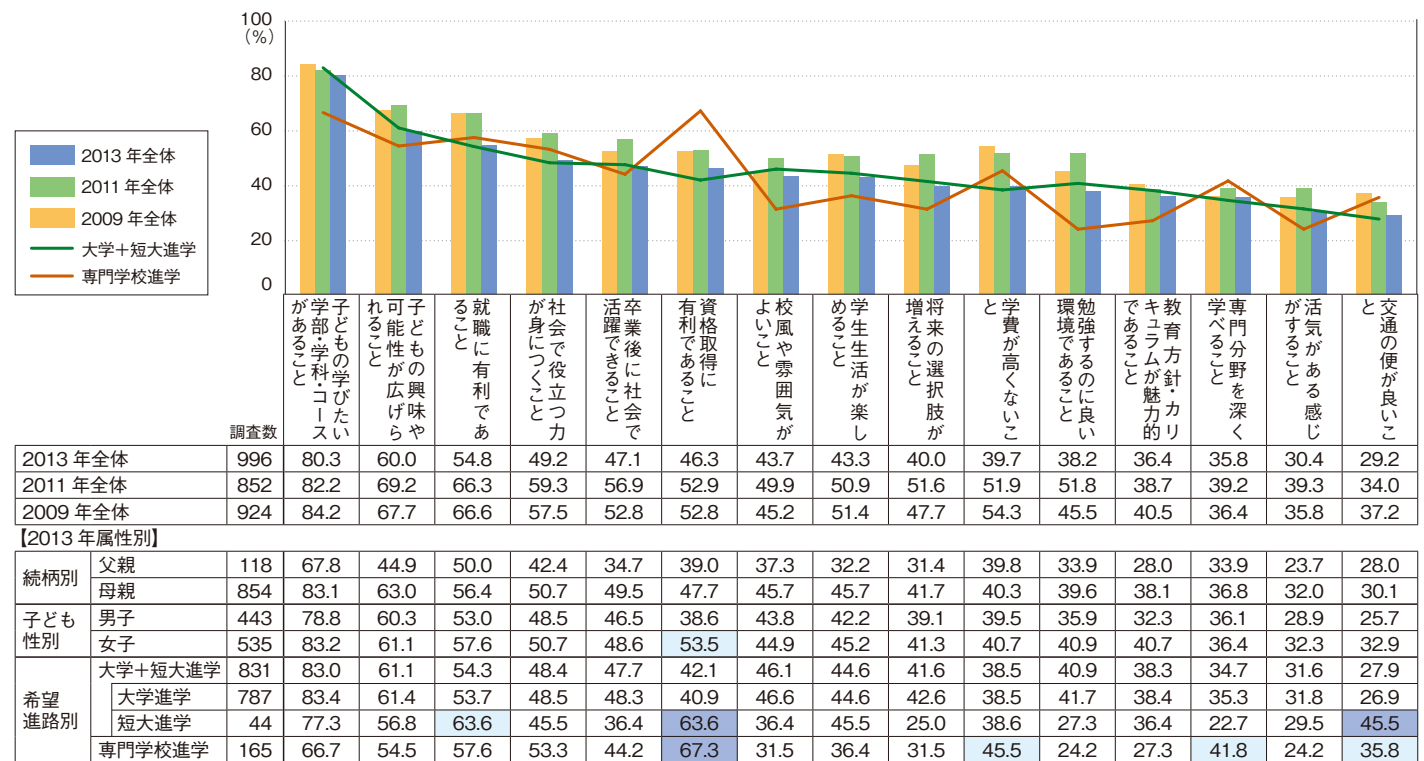


図9 保護者 進学先検討で重視すること (進学希望者/複数回答)



※[2013年全体]降順ソート ※[2013年属性別]は、「2013年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け
 [100.0] [2013年全体]より10ポイント以上高い [100.0] [2013年全体]より5ポイント以上高い

的な行動がこれらの数字からも窺える。

では、保護者が子どもの進学先の検討において重視することは何だろうか(図9)。該当するものを全て選んでもらったところ、「子どもの学びたい学部・学科・コースがあること」(80%)、「子どもの興味や可能性が広げられること」(60%)、「就職に有利であること」(55%)、「社会で役立つ力が身につくこと」(49%)、「卒業後に社会で活躍できること」(47%)などの項目が上位に並び、上位10項目の中には教育内容や制度、卒業後の就職に関する内容が多いことに気づく。子ども自身の希望や興味関心を重視しようとする保護者のスタンスと、入口(入学)と出口(卒業/就職)のギャップとしての「教育成果」を捉

え、社会へのスムーズな移行を願う保護者の気持ちが窺える。

また、子どもの進路選択に保護者としてどう関わっている、もしくは今後どうしたいかという問いに対しては、最近の保護者の特徴的な気持ちが表れている(図10)。

調査時期である高校2年生の時点で行ったことがあるのは、「子どもに合う分野をアドバイスする」(58%)、「就職か進学かを選ぶ際にアドバイスする」(51%)のように「アドバイス」に関する項目が多いが、今後は「興味をもった学校の入試方法を調べる」、「興味をもった学校の見学に行く」など、具体的な進路検討に「行動する」傾向が強くと表れており、これは

過去の調査結果と比較しても増加傾向にある。

では、なぜ子どもの進路選択に保護者は具体的に関わろうとしているのだろうか(図11)。その理由のトップは、「子どもと一緒に考えたいから」(69%)。次いで、「具体的な情報を知らないから」(54%)となり、他の項目を大きく引き離している。続柄別にみると、「子どもと一緒に考えたいから」は父親(61%)よりも母親(70%)の意向が多く、子どもと共に進路検討したい意向が突出し、「一体化」傾向にある保護者の姿が浮かんでくる。さらに、父親に見られる傾向としては、「大人の目で判断した方が良いから」と、保護者として指導的な関与の意向も窺える。

図10 保護者 子どもの進路選択行動へのかかわり方 (進学希望者/各単一回答)

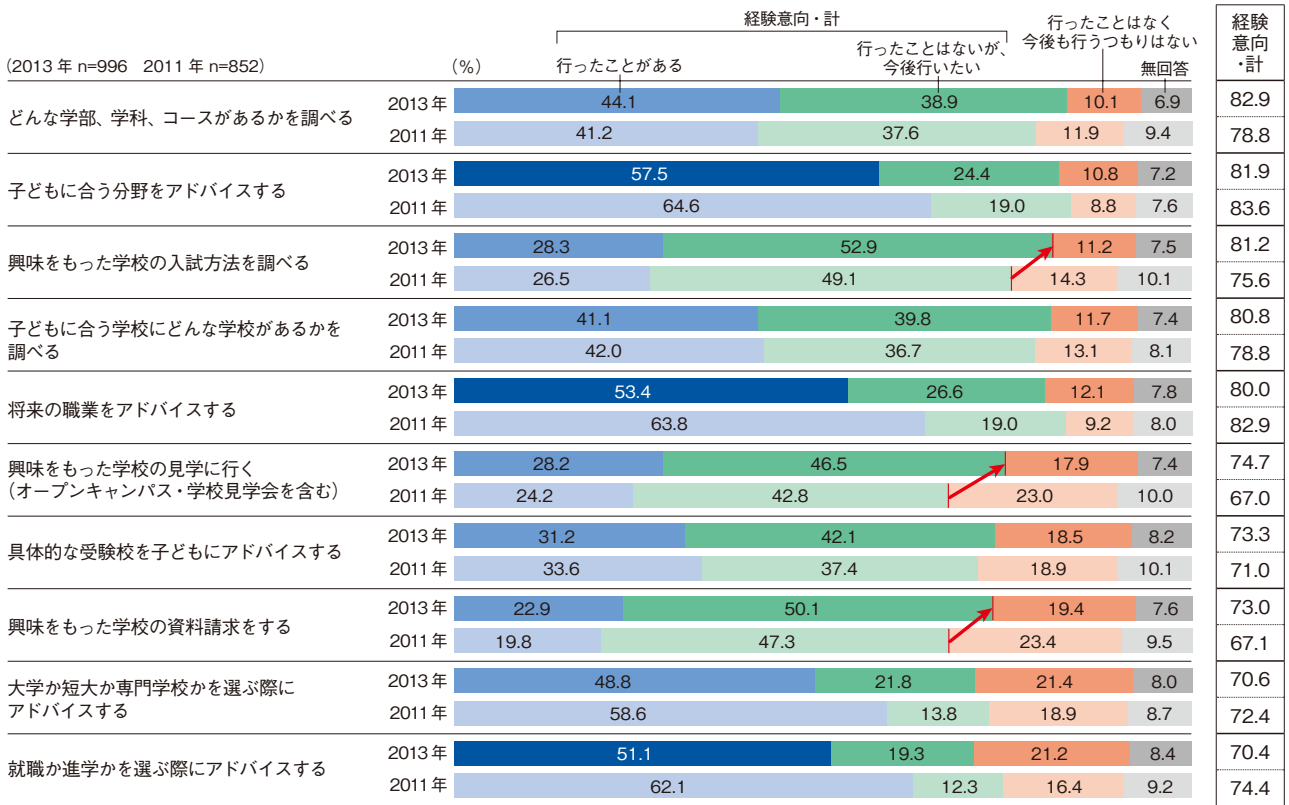
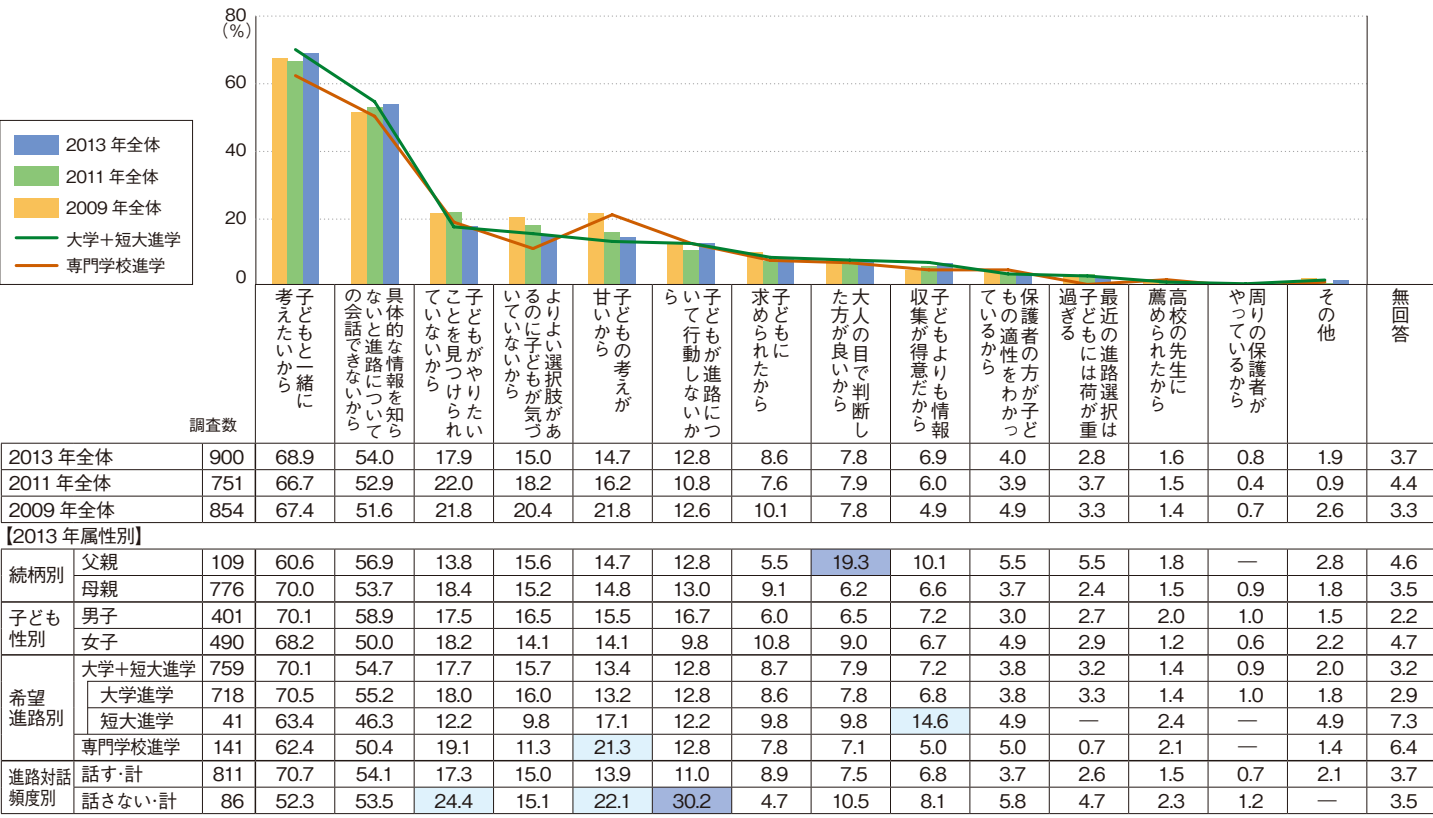


図11 保護者 進路選択行動にかかわる理由 (進学希望者: いずれか進路選択行動を行っている・今後行いたい/複数回答)



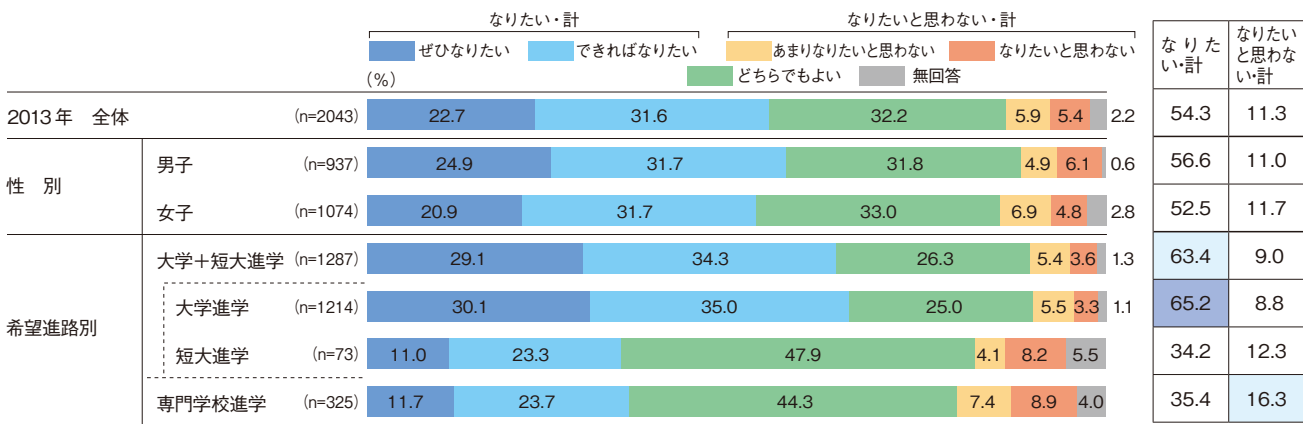
グローバル化社会に対する意識に親子のギャップ 高校生の54%がグローバル人材になりたい、保護者は不安視する傾向が強い

高校生や保護者は、自分の将来(子どもの将来)に対する社会・経済のグローバル化の影響をどう捉えているだろうか。高校生(50%)、保護者(48%)ともに約半数が「影響ある」と回答。次いで「わからない」が高校生(38%)、保護者(46%)となっている。希望進路別に掘り下げてみると、大

学進学希望者(60%)の方が、短大(26%)、専門学校(32%)進学希望者よりも高い。また、続柄別にみると、父親(62%)の方が母親(47%)より高い傾向にある。では、グローバル化する社会で通用する人材になる意向についてはどう考えているのだろうか。

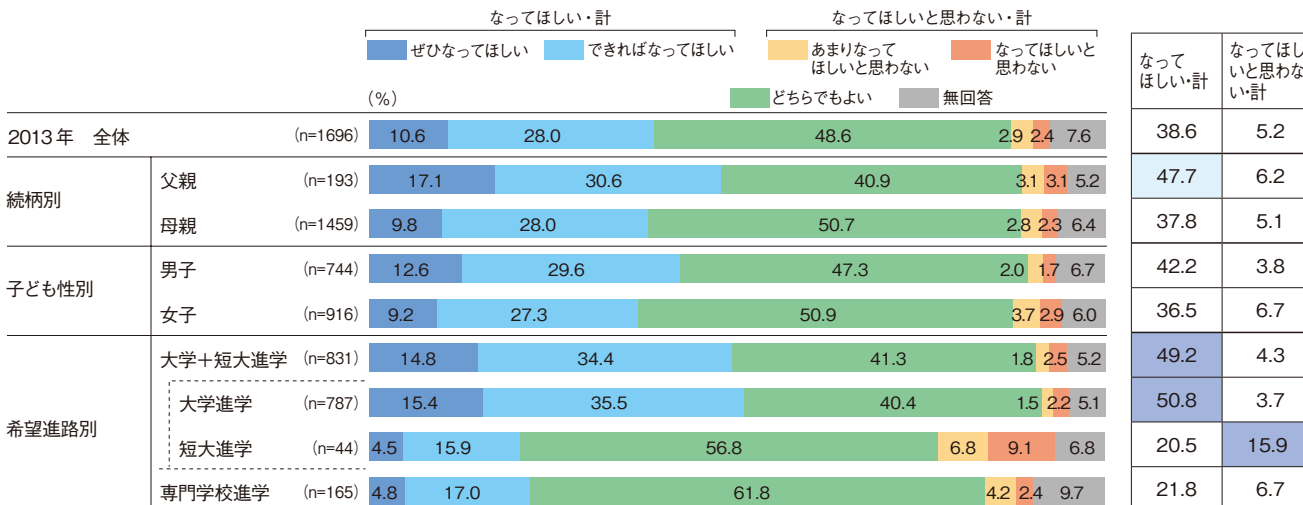
まず高校生から見ると、「ぜひになりたい」(23%)と「できればならない」(32%)を合わせた「なりたい・計」では過半数を超える54%、大学進学希望者では65%と意向の高さが窺える。グローバル人材になりたい理由については、「将来の職業選択の幅が広がるから」「通用する人間でないと

図12 高校生 将来、グローバル社会で通用する人材になりたいと思うか (全体/単一回答)



※【2013年属性別】は、「2013年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け [100.0] 【2013年全体】より10ポイント以上高い [100.0] 【2013年全体】より5ポイント以上高い

図13 保護者 子どもにグローバル社会で通用する人材になってほしいか (全体/単一回答)



※【2013年属性別】は、「2013年全体」より5ポイント以上/10ポイント以上高い数値に網掛け [100.0] 【2013年全体】より10ポイント以上高い [100.0] 【2013年全体】より5ポイント以上高い

生き残れないから」などの意見が挙がった一方で、なりたくない理由としては、「日本のために働く人も必要」や、「英語が苦手」などの語学面での不安と、「自分には関係ない」といった関心の低さが挙がっている。

保護者についてはどうか。子どもにグローバル化社会で通用する人材になってほしいと思うかと尋ねたところ(図13)、「ぜひなってほしい」(11%)、「できればなってほしい」(28%)と合わせて39%が「なってほしい」と回答。保護者の場合「どちらでもよい」が約半数を占めており、高校生と比べて積極的な意向者が少ない。

それぞれの理由を探ってみると、

「グローバル化への対応」に加えて、「視野の広い考え方・働き方をしてほしい」という意見が挙がっている。なってほしくない理由としては、「子どもが希望していない」「地元で働いてほしい」という意見が見られた。

さらにグローバル社会で通用する人材に必要な力は何か尋ねたところ(最大3項目)、「コミュニケーション力」「語学力」の2項目が突出(図14)。「語学力」が必要と回答した高校生のうち、その能力を「もっている」と回答したのはわずか7%に留まり(折れ線グラフ)、語学力の必要性を感じながらも、実際に能力をもっているのは1割に満たない実態が浮かび上

がってきた。子どもの留学意向については(図15)、「留学させたい」「できれば留学させたい」を合わせて22%の保護者が留学に積極的。「自分の視野や考え方が広がる」「英語(外国語)で会話ができるようになる」「外国の価値観・文化などを理解できる」などの意見があがっている(図16)。

反面、「留学させたくない」「あまり留学させたいと思わない」をあわせると42%にのぼり、その理由としては「海外の治安に不安があるから」がトップ。次いで「そもそも留学を考えたことがない」「費用が高い」「英語が苦手だから」となっている。子

もの成長を願う一方で、海外の治安に不安を抱く保護者としての葛藤が浮かび上がってくる。

● 今回の調査を通じて、「親子一体化」の進路選択の実態が浮き彫りになっ

た。決して保護者も好んで望んでいる訳ではない。「入試が複雑すぎて、到底子どもだけでは理解できない」「学部学科の多様化で名前だけでは分からない、アドバイスすらできない」など、子どもの進路選択に苦悩す

る保護者の叫びがあった。シャワーのように情報が降り注がれる中、高校生や保護者に提供する情報の質(内容)と、進路選択状況に応じたタイミングを考慮した広報戦略の重要性がさらに高まっていくだろう。

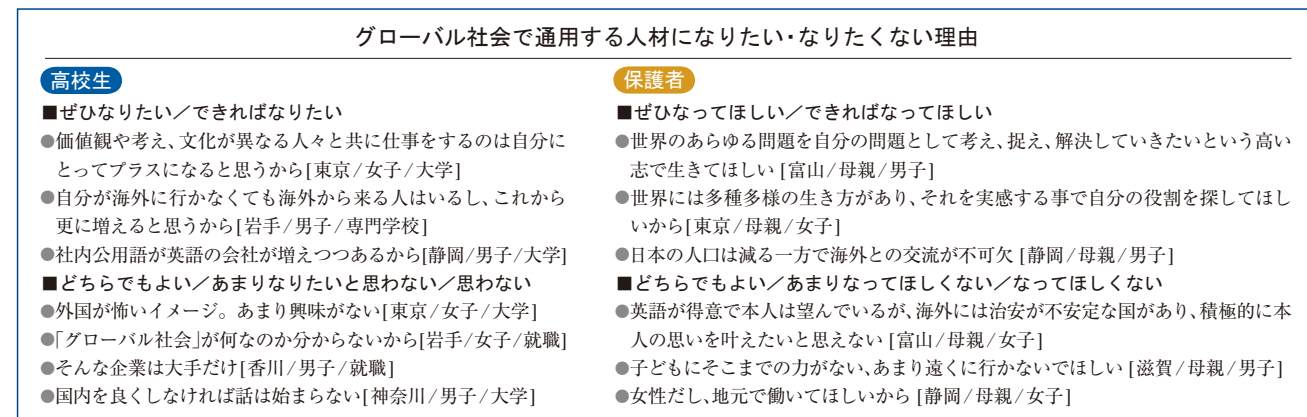


図14 グローバル社会で通用する人材に必要なと思われる能力(高校生・保護者/3つまで回答) 高校生がもっている力の程度(高校生・保護者:各能力「必要」回答者/各単一回答)

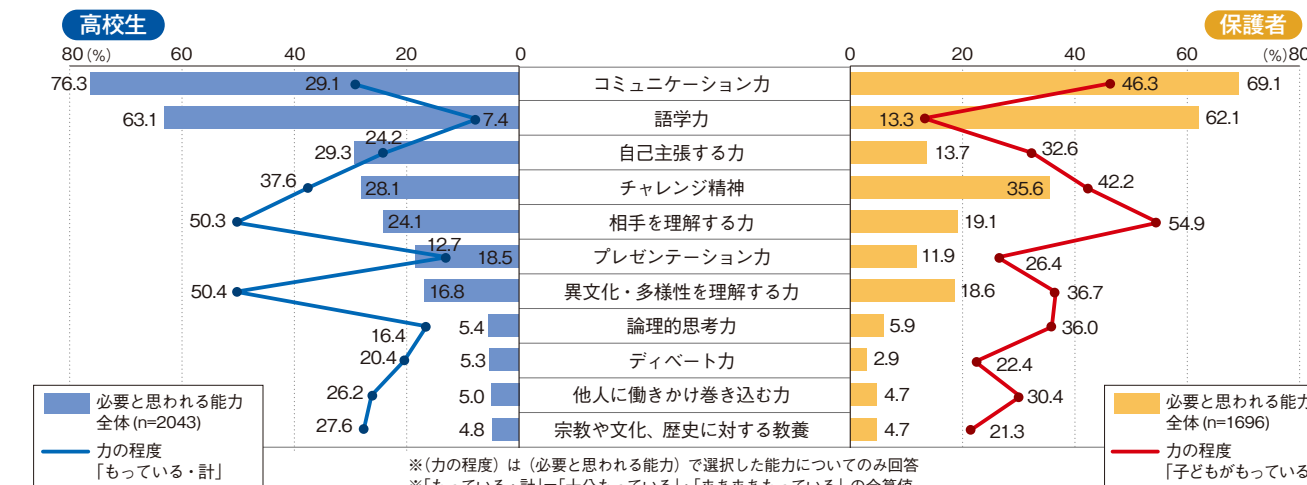


図15 保護者 子どもの留学についての考え(保護者/単一回答)

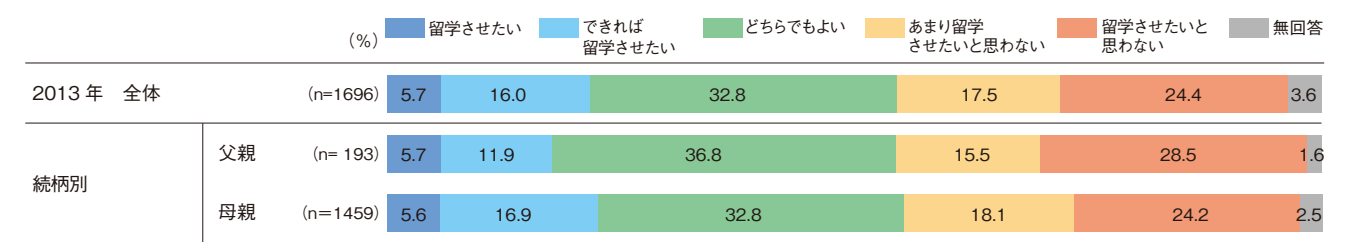


図16 保護者 留学させたい理由(保護者:図15 = 「留学させたい」「できれば留学させたい」回答者/複数回答)

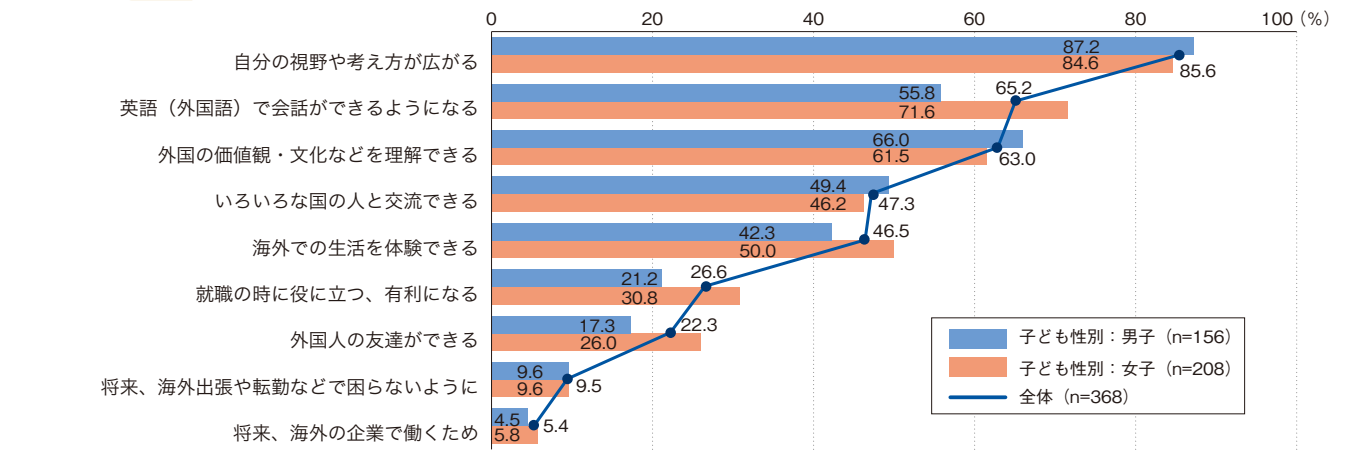


図17 保護者 留学させたくない理由(保護者:図15 = 「どちらでもよい」「あまり留学させたいと思わない」「留学させたいと思わない」回答者/複数回答)

